

## フロンティア分野の概要（草案）

分野の状況	<p>フロンティア分野の研究開発は産業国際競争力の源泉であり、裾野の広い技術開発と波及効果を持つ。</p> <p><u>科学面</u>では、天文学、宇宙科学、海洋科学、地球科学等で、世界最高水準の知的資産の集積。</p> <p><u>宇宙開発</u>は、技術開発面では一部分野で欧米に接近。国際競争力（コストと安定したサービス提供能力）獲得に向けて全力投球。</p> <p><u>宇宙利用</u>は、通信衛星等で国際競争力を持ちつつある。今後、次世代の宇宙利用を開拓する段階。</p> <p>宇宙産業を基幹産業に育成できるかどうかの分岐点</p> <p><u>海洋開発</u>は、世界最深の探査能力を保持するなど、世界最高水準。今後は、その水準の維持と海洋利用の開拓を行っていく段階。</p>
重点化の考え方	<p>技術安全保障の観点、国際競争力強化のための技術開発の観点、世界市場の開拓を目指せる技術開発の観点、国際貢献の観点。</p>
重点となるべき領域・項目	<p>国民が夢と期待を抱ける目標と計画性をもったプロジェクトに支えられた領域で、上記観点から選定。</p> <p>●<u>技術安全保障の観点</u> 情報収集衛星とその打上能力の確保、測位システムの開発</p> <p>●<u>国際競争力強化のための技術開発の観点</u> 輸送系・衛星系の低コスト化・高信頼性の樹立</p> <p>●<u>世界市場の開拓を目指せる技術開発の観点</u> 高機能観測衛星、海洋資源活用技術</p> <p>●<u>国際貢献の観点</u> 国際科学プロジェクト、地球観測データの途上国への提供</p>
備考	<p>推進にあたっての基本的な留意事柄</p> <p>●大きな研究開発・施設維持運営費の累加による財政の圧迫の懸念があり、研究開発の効率性の飛躍的向上と、厳正な評価に基づく適切な措置を講じる。</p> <p>●国として一体的な推進ができる体制の構築。</p>

注) 会合後資料の一部を修正いたしました